

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立鳥栖高等学校
1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	アンケートでは生徒、保護者ともに90%以上が「学校生活に満足している」。一方、「家庭学習時間が確保できていない」生徒は50%未満であり、自発的な学びを促す仕掛けづくりが急務である。教科横断的指導やサポートプログラムの活用など、探究活動を体系的に学ぶ体制を整備し、生徒が主体的に考え、行動する機会を多く設ける必要がある。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<p>○東部地区の県立中高一貫校として、これからの時代を見据えた6年間のカリキュラムやキャリア教育について研究を継続すること。</p> <p>○県境にある普通進学校として魅力を磨くことで、県内外から志の高い生徒を呼び込み、地域・日本・世界の未来を切り拓くリーダーを育成すること。</p>
----------------------------	---

達成度(評価)
A:十分達成できている C:やや不十分である
B:おおむね達成できている D:不十分である

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
<p>①学習意欲が旺盛で、不断の努力ができる生徒を求めます。</p> <p>②学校行事及び生徒会活動、部活動やボランティア活動に積極的に取り組む生徒を求めます。</p> <p>③主体性ととともに、他者と協働する姿勢をもって、ものごとに取り組もうとする生徒を求めます。</p>	<p>①基礎・基本を重視するとともに、質の高い授業や深い学びのできる活動を通して、確かな学力を育成します。</p> <p>②探究活動を通して、知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力が身につくような充実した学びを実現します。</p> <p>③生徒主体の学校行事及び生徒会活動、部活動を通して、リーダーの資質・能力を育成します。</p> <p>④地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを目指します。</p>	<p>①国際社会の平和と発展、環境保全に進んで貢献する人材を育成します。</p> <p>②歴史と伝統を重んじる態度と、未来を切り拓く力を備えた人材を育成します。</p> <p>③未知の課題に挑む知性と感性を兼ね備えた実践的行動力のある人材を育成します。</p> <p>④多様な価値観や豊かな想像力を備え、柔軟かつ斬新な発想で新世</p>	<p>①希望進路を叶える確かな学力の育成</p> <p>②心身の健康と豊かな人間性の育成</p> <p>③自ら進んで社会に貢献できる素養の育成</p> <p>④学校の魅力づくりの推進</p>	

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
重点取組				中間評価		最終評価					
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)			実施結果	
●学力の向上	○家庭学習時間の確保と定着のための学年・分掌間で連携した取組	○低学年時に家庭での学習習慣を確立し、各学年での学習時間目標(学年プラス1時間)を達成した生徒の割合を70%以上にする。	<p>・授業での初期指導を徹底し、学習の習慣化に努める。</p> <p>・年数回、全学年で学習時間調査や生活アンケート等を「担任と生徒の二者面談を積極的にし、進路相談とあわせて生活習慣改善や学習意欲向上等の助言を行う。</p>		B	<p>・全体的に家庭学習不足の生徒が多く、生活習慣改善の見直しと意識向上に向けての対策をし、改善のための仕掛けづくりが喫緊の課題である。</p> <p>・担任、副担任の情報共有はできているが、生徒への対応をより工夫ししていく必要がある。</p>	B	<p>・学年全体で情報を共有し、生徒に向けた生活習慣や学習に対する7つのポイントが定期的に実施できた。</p> <p>・形式より内容の充実が必要だと思ふ。</p> <p>・学習時間の差が受験にどのように影響するのか、データ等で生徒に提示するとよいのではないかと。</p>	教務部 進路指導部 各学年		
	○授業の充実、改善に向けた効果的な取組	○学力向上のための効果的な指導のための授業改善に取組み、自分の学力や技能が向上していると思う生徒の割合を90%以上にする。 ○各教科で研究授業を行い、教科分析会を実施する。	<p>・常時すべての授業で相互見学可能とする。</p> <p>・年2回以上の校内授業見学期間を設定する。</p> <p>・年2回の授業評価アンケートの結果をもとに、教科会議で分析し、授業の工夫改善につなげる。</p> <p>・可能な範囲で先進校への授業視察の機会を設け、情報を共有してよりよい授業づくりに活かしていく。また、予備校の教員向け講座も活用し、授業力向上を図る。</p>	B	<p>・中高相互授業参観を行い、各教科で授業力向上に努めた。今年度は生徒の思考力育成を目標に、授業研究を行った。</p> <p>・県外先進校視察を行い、各種会議で情報を共有し授業改善や学校運営改善などに生かすことができた。</p> <p>・生徒の主体性や教師側の改善点を把握しやすいように、工夫を重ねる。</p>	A	<p>・中高相互で教科指導の改善に努め、意見交換を行い、教科横断的課題探究型の学びを推進することができた。</p> <p>・前後期の中間期にアンケートを実施し、生徒・教員がともに自己反省を行い、よりよい学習活動へとつなげることができた。</p> <p>・教職員の夏期講座受講が、授業力向上に繋がっており、若手教員の参加も多く、向上心の高さが窺えた。</p>	A		<p>・アンケート等を利用して授業指導力の向上に努めてほしい。</p> <p>・数値化できない内容であれば、具体例をあげて示すとわかりやすい。</p>	教務部 進路指導部
●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○校内または校外の人権・同和教育講演会に参加した教職員の割合を90%以上にする。 ○SNSや個人情報等に関する講演等を通して、情報モラル教育の徹底を図る。	○校内または校外の人権・同和教育講演会に参加した教職員の割合を90%以上にする。 ○SNSや個人情報等に関する講演等を通して、情報モラル教育の徹底を図る。	<p>・人権・同和教育講演会、及び各クラスでの人権学習・進路保障HR等を実施し、正しい知識と公正な判断で行動できる態度の育成につなげる。</p> <p>・月に1回は注意喚起を行い、生徒が情報の取扱やトラブル未然防止について考える機会とする。</p>		A	<p>・人権学習・進路保障HRで公開授業や人権・同和教育研修会に多くの職員が参加し、日々の学校生活やHR活動等を通して、人権意識の醸成に努めた。</p> <p>・「担任・学生・生徒指導と連携をとり、学校生活全般においていじめ・体罰防止に取り組む。</p>	B	<p>・講演会や集会などで個人情報取り扱いやSNSの取り扱いについて注意喚起を行った。</p> <p>・SNSによる問題行動が発覚したが、生徒指導部との連携を図りつつ、学年全体で対応することができた。</p>	B	<p>・「常々、生徒への注意喚起をお願いしたい。</p>	
	○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応など)について組織的対応ができていると回答した教職員の割合を90%以上にする。	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応など)について組織的対応ができていると回答した教職員の割合を90%以上にする。	<p>・年2回の担任との面談内容や日々の記録の記入事項、アンケート集計を基に気になることを学年や分掌で共有し、連携を取りながら未然防止に努めている。</p> <p>・引き継ぎ学校全体で情報を共有し、特にSNSによるいじめ防止に取り組んでいく必要がある。</p>		B	<p>・年2回の担任との面談内容や日々の記録の記入事項、アンケート集計を基に気になることを学年や分掌で共有し、連携を取りながら未然防止に努めている。</p> <p>・引き継ぎ学校全体で情報を共有し、特にSNSによるいじめ防止に取り組んでいく必要がある。</p>	A	<p>・担任等で情報を共有し、生徒指導部と連携しつつ、生徒の様子について随時把握した。</p> <p>・いじめ事案については、Classiを活用し、生徒の声も拾いやすくなった。今後も早期発見・対応に取り組む。</p>	A	<p>・早期発見できる体制づくりをお願いしたい。</p>
●健康・体づくり	○書物に親しみ、自己啓発を促す読書指導	○生徒1人当たりの年間貸し出し冊数コロナ禍時の5.0冊を目指す。 ○図書館の利用を促し、「図書館を学期に1回以上利用している」と回答する生徒の割合を90%以上に目指す。	<p>・長期休み期間は貸し出し冊数を増やす。</p> <p>・新刊案内を校内掲示する。(学期に1回)</p> <p>・図書館の発行を促す。(毎月1回)</p> <p>・県立図書館や市立図書館と連携して授業の資料をそろえる。(年1回以上)</p>		B	<p>・授業などで良書の紹介や、廊下で書籍をおいて書に親しみ雰囲気作りをし、読書習慣の確立に努めた。</p> <p>・読書の工夫や生徒が本に親しむための試みを行い、現時点で昨年度年間貸出冊数は超過しているが、目標値までは届いていない。(11月末現在2冊/人)</p>	B	<p>・学年での読書習慣の推進ができていない。</p> <p>・図書館をClassiで配信し、60人以上の生徒が見ている。</p> <p>・読書や授業、生徒への働きかけの工夫により、貸出冊数は64冊から95冊の冊、1人当たり15冊から2.8冊に増加した。(11月末締め、昨年度)</p>	B	<p>・図書館の位置も踏まえて、利用しやすい図書館づくりをお願いしたい。</p> <p>・冊数だけでは成果をみるとできないのではないかと。</p>	図書部 各学年
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上 ○毎朝朝食をとる生徒の割合を80%以上にする。	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上 ○毎朝朝食をとる生徒の割合を80%以上にする。	<p>・食に関する意識調査を実施する。</p> <p>・家庭科の授業などをおとせ、食の大切さを育む。</p> <p>・保健室室長生徒に、個々の状況に応じた指導を行う。</p>		B	<p>・生徒の自己管理能力が十分ではない様子が見える。基本的な生活習慣の確立及び食生活の重要性について教科授業を含めて生徒の理解を深める必要がある。</p> <p>・定期的に保健室より発行し、食習慣や熱中症、感染症予防など適切な心身の健康啓発を継続する。</p>	B	<p>・運動部活動の生徒は食生活の重要性を理解しているが、その他の生徒の意識改革が必要である。</p> <p>・保健や家庭科の授業を通して、食に関する意識の向上に努め、生活習慣などに関する意識を高めることができた。</p>	B	
○安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故件数を前年比マイナスにする。 ○集会や各連絡を通して、安全に関する情報を共有し、周知徹底する。	○生徒の交通事故件数を前年比マイナスにする。 ○集会や各連絡を通して、安全に関する情報を共有し、周知徹底する。	<p>・通学路危険マップを作成し全生徒に配布するとともに、生徒支援室、聖救室などからの注意喚起の資料をクラス掲示することにより、交通事故に巻き込まれない意識を高める。</p> <p>・年2回の自転車点検、年1回の交通安全教室のほか、心算まつり行事、標語募集、看板設置なども随時実施する。</p>		B	<p>・軽微な交通事故が1件発生しており、自転車同士との接触事故が多い。今後も注意喚起を行っていく。</p> <p>・交通マナーに関する苦情は減少傾向にあるが、交通や公共マナーについては継続的に指導していきたい。</p> <p>・自転車のヘルメット着用率が若干増加傾向にあり、引き続き交通事故を未然に防ぐ取り組みを行い、命の大切さを改めて安全啓発していく。</p>	B	<p>・自転車の並走や歩道通行のマナーなど指導すべき生徒が多い。事との接触などの軽微な交通事故が数件発生しており、自転車の交通ルールについて引き続き指導する必要がある。</p> <p>・軽微な事故が上半期だけで10件に達し、下半期での発生はない。ヘルメットの着用は増加傾向にある。</p>	B	<p>・事故にあわない見方力の育成をお願いしたい。</p>	生徒指導部 各学年
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<p>・「業務削減のために、個人として工夫改善を思っている」というアンケートについては、83%の職員が思うような程度思うと答えていた。</p> <p>・時間外在校等時間について、全職員の4～12月は月平均4時間減少している。次年度に向けて、さらに改善と工夫を重ね、時間外在校等時間の削減を進めていく。</p>		B	<p>・アンケートでは、「休暇を取りやすい雰囲気である」というアンケートについては、83%の職員が思うような程度思うと答えていた。</p> <p>・時間外在校等時間について、全職員の4～12月は月平均4時間減少している。次年度に向けて、さらに改善と工夫を重ね、時間外在校等時間の削減を進めていく。</p>	B	<p>・職員の仕事の健康に目を配ってほしい。</p> <p>・評価がAを目指してほしい。</p>	管理職		
●特別支援教育の充実	○生徒にとって学びやすい学校づくりの推進	○スクールカウンセラーを含め職員間で情報共有の充実を図る。	<p>・年度当初に各学年ごとに生徒理解会議を開催する。</p> <p>・メンタリングシートを作成し、毎月1回の教育相談会議を開催する。</p>		B	<p>・年度当初の生徒理解会議や毎月の学年担任会で気になる生徒について職員間で情報共有できている。</p> <p>・学年、教科相談部が連携をとり、各担任を中心にシェアリング・シートを作成し、対応が必要な生徒について対応方法を検討し、適切な対応ができている。</p>	B	<p>・不登校生徒及びその保護者への対応が職員(特に担任)に相応しい責任となっている。</p> <p>・担任等で情報交換を随時行い、保健相談部とも連携して不登校傾向の生徒や対応が必要な生徒について情報を共有し、適切な対応を行うことができた。</p>		B	<p>・達成度がAとなる努力をお願いしたい。</p> <p>・評価規準とアンケートの内容を精査する必要があるのではないかと。</p>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
重点取組				中間評価		最終評価					
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)			実施結果	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上 ★グローバルな視野・考え方を持った人材を育成を目指す ★キャリア形成に資する探究活動プログラムの充実を図る。	<p>・既存の学校パンフレット、学校説明会、ネット配信による学校PRについて、本校独自の魅力という視点から内容を随時見直し、改善する。</p> <p>・心算まつり行事・活動を一層充実させるために細かい工夫・改善を行う。</p> <p>・個々の興味・関心や語学力、目的などに応じて自己に最適なプログラムが選択できるように、複数のプログラムを設定する。</p> <p>・交通の要塞であり、多くの研究施設等が集積している地の利を活かし、企業、大学等と連携した探究活動プログラムを設定する。</p>		B	<p>・体験学習の開催やラジオによる案内を行うなど、県内外に本校の良さをPRすることができた。</p> <p>・生徒会主催の学校行事を魅力ある活動にするため、生徒会役員を中心に工夫・改善を行うことができた。</p> <p>・保護者に学校行事の様子や行事予定等を学年通信等を配信し、学校の現状を伝えることができた。</p> <p>・オーストラリア海外研修に多数参加しており、グローバル人材育成の一助となっている。</p> <p>・何らかの体験活動ができるように参加者を募集し、活動に参加させることができた。次年度の探究活動のために、地元企業と交渉する等、準備を進めている。</p>	A	<p>・体験発表の場を設け、他の生徒の興味関心を引き出し、さらに挑戦する生徒の発掘を試みた。</p> <p>・学校祭など、生徒会役員中心に活発な意見を取り入れ、工夫・改善を行うことができた。</p> <p>・東京研修やイングリッシュキャンプ、各大学開催のプログラム案内等を行い、参加者を得ることができた。今後も自己研修の選択肢を増やしていきたい。</p> <p>・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合92%以上、教職員の割合90%以上であった、やや生徒が目標に届かなかった。</p> <p>・県外からの入学者数は、2人であった。</p>	A	<p>・今後もPR活動に力を入れてほしい。</p>	教務部 情報広報部 進路指導部 生徒会 各学年
	○生徒の進路意識を高め、進路希望を実現するための適切な指導	○面談での助言が効果的だったと答えた生徒の割合を90%以上にする。 ○第一志望大学合格者の割合を増やす。 ○難関大5名、九州大20名、国公立大120名以上の合格を目指す。 ★キャリア教育の一環として、OBや本校関係者等による講演会を実施する。	○面談での助言が効果的だったと答えた生徒の割合を90%以上にする。 ○第一志望大学合格者の割合を増やす。 ○難関大5名、九州大20名、国公立大120名以上の合格を目指す。 ★キャリア教育の一環として、OBや本校関係者等による講演会を実施する。	<p>・進路検討会や模試分析により、客観的に生徒の学力特性を把握し、面談等の的確な進路指導につなげる。</p> <p>・入試問題研究の充実と各種研修会への参加を通して、教科指導及び進路指導の指導力向上を図る。</p> <p>・難関大学志望生徒への学習指導について、各教科での工夫改善と全体での情報共有に努める。</p> <p>・新教育課程に伴う大学入試変更点について、教職員の情報共有とともに、随時、生徒保護者への情報提供を行う。</p> <p>・講演会等を実施し、生徒の進路意識を高める。</p>		B	<p>・模試分析を教科、学年で行い、現状把握と対策策定を重ね、各教科の課題と反省を踏まえて、徐々に成果を上げていくことができた。</p> <p>・生徒の進路意識の調査や高観、維持を目標にして、進路、講演会やセミナー等を実施することができた。</p> <p>・入試問題研究の発行、入試動向等の情報提供、各種研究会の案内を行い、各学年保護者会で講師を招聘するなど、先生、生徒、保護者にそれぞれ必要なものを提供することができた。</p> <p>・進路検討会に合わせた、長期授業、活用等を行い、生徒の進路意識を高め、実力養成を図っている。</p>	B	<p>・探究の時間を通して生徒自ら興味関心ある学問や職業を調べ、将来の見通しを立てることができた。</p> <p>・年間の見通しを生徒に提示し、生徒が自ら学ぶ時間を確保するための課題を設定し、各講義会について内容と時期を考慮して実施した。生徒の反応も概ね良好であった。</p> <p>・学年集会で「大学受験の仕組みを知る」と題した話を行い、進路意識の向上に努めた。</p> <p>・進路検討会には各先生方による発言が増え、議論と意見の共有ができ、その後の面談等に反映してもらうことができた。</p>	B	
○学校に対する生徒・保護者の満足度	○アンケート「生徒は、学校生活に十分満足している」で肯定的な回答をした割合を生徒・保護者ともに90%以上にする。 ★県内外へ向け本校の魅力積極的に発信する。	○アンケート「生徒は、学校生活に十分満足している」で肯定的な回答をした割合を生徒・保護者ともに90%以上にする。 ★県内外へ向け本校の魅力積極的に発信する。	<p>・部活動の活性化を図り、ボランティア活動、部活動以外の文化的活動、研修会など、様々な分野の活動を積極的に紹介していく。</p> <p>・生徒の主体的な活動をできるだけサポートするよう努める。</p> <p>・Instagramの活用などによるタイムリーな情報発信に努める。</p> <p>・可能な範囲で中学校、学習塾、市町教育委員会等への訪問説明を行い、本校の魅力伝える。</p>		B	<p>・学校行事や部活動など、積極的に活動を実施することができた。今後も、生徒からの意見を取り入れながら、より良い活動にできるよう工夫、改善に取り組んでいきたい。</p> <p>・Instagramによる情報発信を開始し、生徒が生き生きと活動している様子をPRしているが、より積極的に更新できるように工夫を重ねる。</p>	B	<p>・学校生活に満足している生徒がいる反面、部活動との両立に悩む生徒も少なくない。</p> <p>・学校行事や部活動など、生徒たちが積極的に取り組むことができた。今後も、残すものと新しいものを精査しながら、より良い活動にできるよう工夫、改善に取り組んでいきたい。</p> <p>・Instagramで、行事の様子、部活動の上位大会への進出状況などを随時配信した。動画も上位大会へより分かり易い情報提供を行うことができた。</p>	B	<p>・鳥栖高校に来てよかったという気持ちを抱かせて卒業させてほしい。</p>	生徒会 情報広報部

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり</p> <p>・学校に対するアンケート結果では「生徒は、学校生活に十分満足している」に対し肯定的な回答割合は、生徒95%、保護者92%と、学校生活全体に対しての一定の満足度は得られている。しかし、自分自身の「家庭学習時間が確保できていない」生徒は51%にとどまっている。今年度は、2学期制となり、年間わたって担任により個人面談時間も確保できるように、生徒一人ひとりの意識向上、個に応じたきめ細やかな助言を行った。全体に対しての根本的な改善、自発的な学びを促す継続的な取組が急務である。</p> <p>・教科横断的指導や大学、企業等との連携や海外研修など、探究活動を体系的に学ぶ体制を整備してきた。次年度は構造的に活用できるように、機会を設定していく。</p> <p>・生徒会活動を中心に生徒が主体的に考え、行動することが増えてきた。これからの未来を切り拓く力を備えた人材育成のため、生徒会活動のみならず探究活動も含めて、より生徒の活動内容の充実をはかっていく。</p> <p>・どの項目についても一定の評価はできるものの、全分掌・全学年についてそれぞれの課題について継続し、改善を積み重ねていく取組が重要である。</p>
----------------------	--